

発達障害者支援地域協議会及び「専門部会」の構成と検討課題

【令和2年度の到達点】地域協議会「議論の中間まとめ」完成

【令和3年度末の目標】地域協議会「議論の最終まとめ」完成、令和4年度市予算及び事業への反映

地域協議会

(年4回程度)

【検討課題】

⑥人材育成、市民啓発の強化、共生の地域づくり

※災害、コロナ対応を含む

全年齢当事者
家族、支援者
地域社会

⑩家族支援の強化

家族(全年齢)

【最終まとめ】

- ・実態調査結果、各種データの反映
- ・専門部会の検討結果の反映
- ・①～⑩成果目標の設定
- ・具体的な事業計画の検討

調整会議

(必要に応じ)

- ・地域協議会座長
- ・各専門部会代表

※進捗状況の確認、検討内容の擦り合わせ、情報共有

調査・骨格検討部会

当事者(全年齢)

【検討課題】③ 特性理解と支援への反映(特に「手立て」について)

- ・発達障害のある人の日常生活を支える「基本の手立て」を整理検討(例 生活環境の構造化、理解と表出のコミュニケーション支援等)
- ・現状分析、実態調査の企画実施(上記の「基本の手立て」がどこまで定着しているか、等)(当事者、家族、医療、福祉、教育、雇用関係者等への調査)

第一部会(支援システム検討部会)

【検討課題1】ライフステージごとの「気付き～特性理解」の仕組み検討

※ ⑦幼児期 ⑧学齢期 ⑨青年期から成人後 当事者(各年齢)

- ・健診や治療、相談などの機会を活かした「特性の気付き・理解」
- ・当事者の生活を支える「基本の手立て」の導入について

【検討課題2】⑤多職種連携の推進

支援者(多職種)

- ・支援者間の情報共有、支援計画等の様式の工夫、情報の引継

第二部会(強度行動障害支援検討部会)

当事者(重度)

【検討課題】⑩重度の障害があっても地域で暮らせる環境

- ・行動障害の予防から早期介入、集中支援、「支援付き」地域生活への移行まで一貫した支援システムの検討
- ・強度行動障害のある人の「暮らしの場」や、その人らしい「暮らし方」を支える体制について

(別途 令和3年度に実施)

当事者(幼児期)

① 早期の気付き、特性評価 ②評価の実施方法、結果活用(MSPA)

- ・発達障害児早期支援システム研究事業(予算統合・事業継続)

④ 地域医療連携の推進

支援者(医療)

- ・医療関係者との協議(総合療育センター、医師会等)

【令和3年度末】地域協議会「議論の最終まとめ」完成、令和4年度市予算及び事業への反映

【令和4年度～】地域協議会によるフォローアップ(成果目標に基づく進捗管理)